

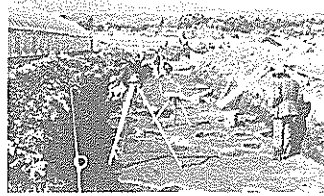
3月

久礼田小体育館、 大篠小 校舎完成

久礼田小体育館は、これまで使っていた講堂が古くなったため、53年8月末から工事費約4600万円と着工していたもので、鉄筋コンクリート鉄骨造り、床面積573㎡。

大篠小学校は、市内きってのマンモス小学校（児童724人）で、児童数の激増による教室不足と校舎の老朽化が目立ち、1期工事として53年7月に工事費約1億3306万円を着工していたもので、鉄筋コンクリート3階建て、普通教室12室。今回の1期工事は全体の4分の1。

2月



土佐国衙跡発掘調査

奈良、平安時代の「土佐の都」の役所跡とみられる比江の「土佐国衙（こくが）」跡が発掘調査されました。

「国衙」は現在の県庁にあたるもので、この地は県指定の史跡。市教育委員会が県教育委員会の協力や岡本健児高知女子大教授らの指導で行ったもので、国衙関係の建物の柱穴16基などを発見し、この地が役所跡であることが確認されました。この種の調査はひきつづき県教育委員会調査団によって発掘されます。

2月

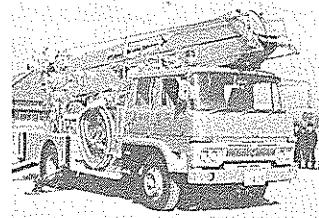
比江山処分一地元で話し合い

北部運動公園を作るために、市が46年から52年にかけて買収していた比江山の18㌔を、財政再建のために売却する件について、2月7日、地元国府で初の話し合いがもたれました。

市からの説明内容は、開発公社にある赤字27億円の負担を軽くするために10㌔分を約9億円で「木材団地」に売却、残った8㌔のうち4㌔分を当初予定していた運動公園にというものでしたが、「木材団地は歓迎できない」と地元は難色を示しました。



1月



消防本部にはしご車登場

南国市消防本部に初の「はしご消防自動車」が登場し、1月6日の出初め式会場で関係者や消防団員らに披露されました。

このはしご車は、屈折はしご消防自動車（通称スノーケル車）で、はしごの長さは16m。発電装置や呼吸困難な場合の空気送り装置、ポンプも搭載した最新鋭車です。

国の補助を得て3,170万円で購入したもので、今後の消防活動の「大きな力」として関係者らを喜ばせました。

この一年

54年のできごと

今年は「選挙の年」でした。衆議院議員、市議会議員、市長、知事の各選挙が10月、11月に集中し市民は選挙マヒを起こしたかも知れませんが、それぞれ決定して国、県、市とも定みなく動いています。

市での大きな出来事は、大きなプロジェクトがひしめくなか、市制20周年の一つの節目を迎えたことです。思われた条件をどのように生かし、市民のみなさん一人ひとりが

『愛することの出来る郷土——わが南国市』を肌で感じられるよう、新しく選ばれた議員、市長をはじめ市の幹部、職員が一丸となって80年代をがんばらねばなりません。

市民のみなさんも選挙に見られるように行政への無関心が相変わらず続いているようですが、『自分たちの生活を少しでも豊かにするために』もっと積極的に市政に参加しようではありませんか……。

5月

園芸施設共済制度スタート

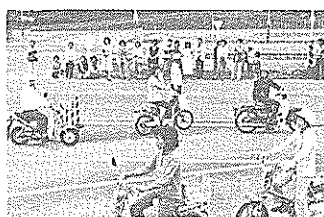
施設園芸は当市における主要な生産部門として温暖な気候に恵まれ目覚ましい発展を遂げましたが、一方台風常襲県として過去に大きな被害も受けてきました。

このような情勢の中で、ようやく「園芸施設共済制度」が確立され、5月から市内共済組合への申込みが始まりました。

今年は、直撃の台風はなかったものの、16号、20号の台風でそれぞれビニールや作物に被害を受け、この制度が確立されたことに園芸農家は大きな意義を感じています。



5月



ミニバイク安全教室

最近ミニバイクの女性ドライバーが急増し、事故件数も多くなっている傾向にある——『春の全国交通安全運動』期間中の5月13日、中央婦人学級の一環として「ミニバイクの交通安全教室」が南国自動車学校で開かれ、約40人の婦人がミニバイクの正しい乗り方などを勉強、講師に迎えた南国警察署の西尾交通課長からブレーキの使い方、交差点の通行、安全確認などについて細かいアドバイスを受けた。

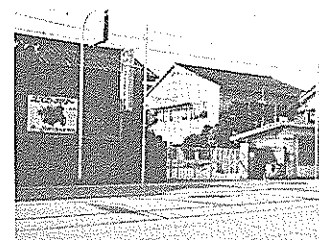
4月

し尿処理ストップ

永久施設をめどがたないまま、黒滝地区の山で前近代的な浸透方式を行っているし尿処理——51年6月、市と地元との覚書による7項目が、一部を除き不履行、期限（54年3月末）が来たのに市側に誠意がみられないなどの理由で、地元住民は3日夜、処理場入口を実力封鎖しました。

一方、し尿処理業者は、市役所にバキュームカーを乗りつけ休業補償などを市に要求、深刻な事態になりましたが、再三の話し合いの中で条件付きで黒滝地区住民が封鎖を解除、1週間ぶりになんとか非常事態はまぬがれました。

2月



鈴江農機事実上倒産

昭和22年の設立以来、32年の伝統を誇る「鈴江農機製作所」が2月1日、自主再建への努力も及ばず事実上倒産しました。

鈴江農機は、セイレイ工業高知工場（旧協和農機）と並び代表的な地場産業でしたが、今回の「倒産」によって約200人の退職者がで、関連企業21社とそこに働く人達約200人にも重大な影響をおよぼし「農機の町」に暗い陰りと市民に大きなショックを与えました。

1月

有線電話廃止

市民の「有線」として親しまれ、17年間の歴史に幕を閉じました。

昭和37年に設立された「南国市農事放送農業協同組合」は、有線普及ピーク時には4700人ちかくの組合員をもち、広く利用されてきましたが、昭和53年度末には公社電話におされ、組合員も約1500人に減少し、累積赤字約4600万円となり、組合総会で「解散止むなし」が議決され有線の廃止となりました。



1月

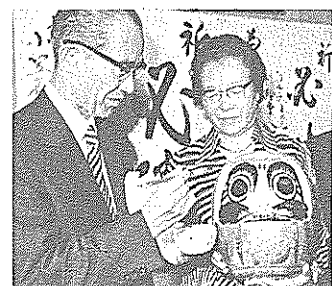


舟入川をきれいに

汚れがひどくなった舟入川を見かねた流域の篠原地区住民ら約70人が参加して1月14日舟入川で大がかりな清掃作業が行われ、約1300m行われた清掃で20tあまりのゴミが集められました。

この清掃は、舟入川からゴミを追放しようと「篠原舟入川をきれいにする会」を結成、地元をはじめ上流の東崎、後免町の流域住民「共同作業」で行われ、市からも職員やダンプカーが出て応援し市民の顔である川をきれいにしようと訴えました。

11月



小笠原市政二期目へ

任期満了に伴う南国市長選挙は、10月25日告示されましたが、対立候補がないまま、小笠原憲郎現市長が市制始まって以来の無投票で再選されました。

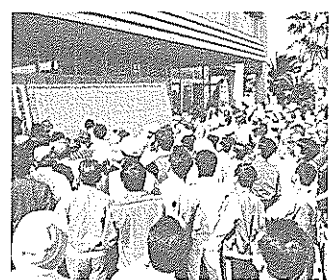
小笠原市長は、4年前杉本元市長の失職後初当選、以来、財政、空港、同和の3つの問題を柱として取り組んできましたが、なお多くの問題が山積みされており、二期目の小笠原市政にける期待は大きなものがあります。

10月

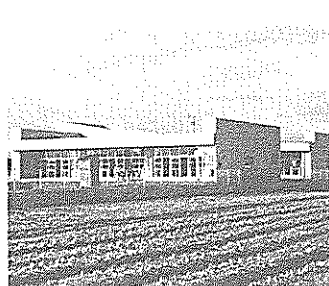
市議選——30人決まる

30議席に33人が立候補。「少数激戦」で争われた市議選は、10月21日投票、翌日開票の結果、現職21人、元議員2人、新人7人が当選。市民の注目するなかで新しい30人の顔ぶれが出そろい、特に新人の激戦や、上位の大量得票が目立った今回の選挙戦でした。

21日の投票は好天に恵まれ、前回の84.74%を上回る85.74%で、当日有権者数は3万2千669人でした。



10月



大湊保育所がスタート

大湊小学校を南へ100m——前浜保育所と南部保育所が統合、10月1日から『大湊保育所』がスタートしました。

前浜、南部保育所とも木造の建物で老朽化がいちじるしく、早急な改築が望まれていたもので、今年1月末に着工、工費約9600万円です工事を進めていました。

なお、前浜は昭和24年8月、南部は昭和26年3月から開所していたもの。

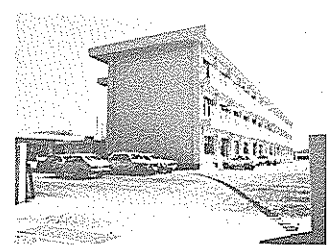
9月

香南中学校新校舎落成

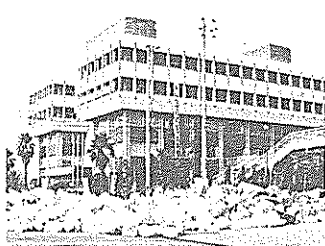
昨年7月から建設を進めていた校舎が完成し、8日、落成式が盛大に行われました。

旧校舎は木造2階建てで、老朽化が進み危険なため、総事業費約2億9千200万円です工事を進めていたもの。

新校舎は、鉄筋コンクリート造3階建ての本館と平家建ての技術棟、普通教室7室のほか、図書室、美術室などが。なかでも、視聴覚教室、LL教室は地下でも例をみない近代的な機器が完備されている。



8月

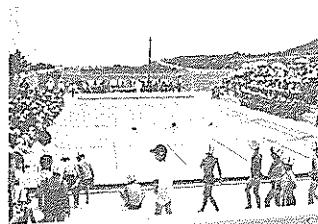


ゴミ収集ストップ

南国など7市町村から出されている、1日約40tのゴミを処理している香南清掃組合の『ゴミ焼却場』で、8日機械の操作ミスで汚水が西隣の用水にあふれ、地元の抗議で「操業停止」という深刻な事態がおこりました。

この事件でゴミ収集がストップ、家庭にゴミがたまる一方、一時は市役所駐車場もゴミの山となりましたが、地元（三島）との積極的な交渉の結果、1週間ぶりに操業が再開されました。

7月



三和小プール完成

三和小学校に新しいプールが完成し、7月20日、盛大に落成式が行われました。

同校のプールは昭和32年に作られていましたが、古くなったことや小学生には深すぎるなどから改修の声があがっていたもので、新しいプールは五段のスタンドがついた25m・5コースの立派なものです。

12月

両助役と収入役再任

任期満了に伴う助役、収入役の選任について、12月市議会定例会で、助役に吉本太志男（56）、国沢守道（55）の両氏、収入役に田岡信雄氏（56）がそれぞれ再任され、市長を補佐して市政発展に尽くすことになりました。



国沢助役



吉本助役



田岡収入役

12月

比江山……木材団地と 県歴史公園に

2月7日以来、財政再建の見地から、比江山へ運動公園用地として確保していた18haの処分を国府地区に相談すること9回。12月8日の会で「歴史公園の中に2.4haの運動場を確保することに全力をつくす」とことや国府地区の各種整備を条件に、地区は木材団地の誘致を承諾、市と「覚書」を交換しました。

これにより比江山は木材団地と県歴史公園になる公算が大となり、市の財政再建にも大きく貢献することが期待されます。

11月

農機具のスズエ 再建へ第一歩

ことしの2月1日、約54億円の負債をかかえ、再建のために会社更正法の適用を申請していた『鈴江農機製作所』に対して、高知地方裁判所は11月30日更正手続きの開始を決定、管財人に安岡三四郎弁護士を任命しました。この決定により管財人が中心となって更正計画案を55年11月29日までに作成関係人の可決を経て、裁判所は最終的な認否を決定することになっています。再建の最大関門であった『管財人』が決定したことで鈴江再建へ大きく踏み出しました。

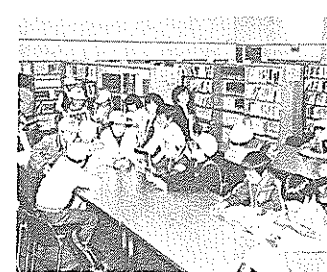
9月

市立図書館オープン

「市制20周年」を記念して、市民待望の『市立図書館』が9月28日、市役所庁舎北側の旧水道局の建物を改築してオープンしました。

開館した図書館は、1階を改築したもので、面積約330㎡。閲覧席は24席。蔵書数は6,500冊。

平日は午前9時～午後5時まで、土曜日は午前9時～正午まで、日曜、祭日は休館——で運営されています。

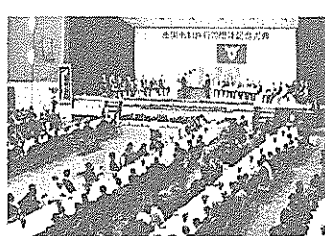


9月

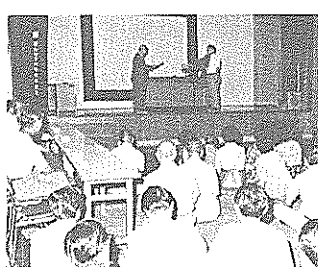
市制20周年記念式典

南国市の「20歳」を祝う成人式——『市制施行20周年記念式典』が9月28日、市民体育館に市内各地区の代表者や関係者ら約500人が出席して盛大に開かれました。

当日は、市制発展に貢献された個人31名、5団体を表彰したほか、市の木「ヤマモモ」市の花「タチバナ」市の鳥「オナガドリ」の発表、市民憲章碑の建立、市立図書館の開館、市史の発刊などを行い、「たくましい田園産業都市」実現へ、新たなスタートをしました。



9月



国府で史跡映画完成

「国府の姿」を再認識するとともに、後世の人たちに残していこうと、国府史跡保存会（乾常美会長）の手によって製作が進められていた史跡映画『土佐のまほろば』が完成、9月25日、記念の試写会が国府小講堂で開かれました。

完成した映画は、16ミリフィルムでカラー作品、映写時間は約30分。52年11月から製作を進めていたもので、数々のすぐれた史跡の姿や文化財が記録されています。